

調査報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4671000224
法人名	医療法人 微笑会
事業所名	グループホーム ほほえみ
所在地 (電話番号)	鹿児島県指宿市東方431-1 (電話) 0993-22-1030
評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島県真砂本町21-5前田ビル1F
訪問調査日	平成19年4月25日

【情報提供票より】(平成19年3月8日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 12 年 4 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	8(7) 人	常勤	8(6) 人, 非常勤 (1) 人, 常勤換算 8(6.9)

(2) 建物概要

建物形態	単独	改築
建物構造	木造2階建て防火サイディング造り	
	2階建ての	1階 ~ 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	31,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	200 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ 円
	または1日当たり 1000 円		

(4) 利用者の概要(3月8日現在)

利用者人数	18 名	男性	1 名	女性	17 名
要介護1	7 名	要介護2	6 名		
要介護3	2 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 86.2 歳	最低	75 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	・ 田畑クリニック
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

豊かな自然に恵まれ、季節の移り変わりを身近に感じる閑静な環境の中に建つグループホームである。周囲に民家と畑が広がり、散歩途中に近所の方と挨拶をしたり会話を交わすなど、地域とつながりながら暮らしている。ホームの行事に近所の方を招待したり、地域活動に参加し、地域住民の一員としてお互いに支えあう関係作りに努めている。医療法人が母体であり、医療連携体制を強化し、日常の健康管理や医療面のバックアップを十分に行っている。管理者をはじめ職員は、利用者と職員がお互いに笑顔で暮らすことを心がけ、利用者一人ひとりのペースを大切にしたいその人らしい暮らしを支援している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 運営理念の啓発について、行事を通じての交流の中で取り組んでいる。介護計画の見直しは、定期的な見直しと状態変化時に随時行っている。感染症対策のマニュアルを作成し、予防と対策に取り組んでいる。注意が必要な物品の管理は、職員で検討し適切な管理を行っている。市町村との関わりや働きかけが不十分であった点は、運営推進会議開催後は連携を十分取っており改善している。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 職員全員が日々のケアを振り返り見直す機会ととらえ、改善課題を提起するなど自己評価に取り組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 事業所からの状況報告と共に、地域との交流や関係の強化等について、行政担当者・地域の代表者・利用者・家族それぞれの立場からの意見等を話し合う場とし、外部評価の改善点の取り組みや防災対策について、地域の理解や支援を働きかけている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族会の設置や第三者委員として地域の方に苦情対応委員を依頼し、意見や苦情が出せる仕組みがある。管理者をはじめ職員は、意見等を言いやすい雰囲気作りに努め、出された意見・苦情等は早急に職員で話し合い対応している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) クリスマス会に近所の方を招待して交流の機会を設けたり、クリーン作戦などの地域活動にも積極的に参加している。近隣の保育園児たちが散歩途中に立ち寄りたり、近所の方も気軽に話しかけるなど地域と交流がある。

調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	その人らしく暮らし続けることを、地域との関わりの中で支えていく内容となっている。今後は、地域密着型サービスとして果たすべき役割という視点からも検討していく予定である。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は日々、理念の実現に向けたケアに取り組むように職員に話しており、常に意識してケアを行っている。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	クリスマス会に近所の方々を招待して交流の機会を設けたり、自治会に加入し、クリーン作戦などの地域活動に積極的に参加している。近隣の保育園児が散歩途中に立ち寄りたり、外出時にも声をかけるなど交流がある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員が、日々のケアを振り返り見直す機会ととらえ、自己評価に取り組んでいる。前回の外部評価の改善課題も職員全員で検討し、改善への取り組みを行っている。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの抱えている課題について、行政・地域・利用者・家族それぞれの立場からの意見を話し合う場としており、サービスの向上に活かしている。評価結果の報告や改善に向けた取り組みについての意見をもらっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホームの現状や取り組みを積極的に伝え、困難事例を相談するなど課題の解決に向けて、共に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	訪問時に、利用者の心身の状況や暮らしぶりを伝え、金銭管理については、出納帳で確認後サインをもらっている。季節ごとにホーム便りを発行して様子を知らせたり、健康状態については電話での報告も行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	第三者委員として、地域の方に苦情対応委員を依頼している。管理者や職員は、気軽に言ってもらえる雰囲気作りに努め、訪問時には職員から声をかけるようにしている。出された意見や苦情は、職員全員で話し合い早急に対応している、		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は、馴染みの職員によるケアの重要性を認識しており、法人内異動は基本的に行っていない。やむなく職員の離職や異動がある場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所外の研修に順番に参加したり、毎月のミーティングで研修報告を行うなど、職員全員で勉強会を行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	指宿地区地域密着型連絡協議会に入会し、管理者と職員は地域の他のグループホームと交流したり、勉強会に参加する等、サービスの質の向上を目指している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者本人に事業所を見学してもらい、職員や他の利用者、サービスの場に馴染んでもらえるよう支援している。状態によっては利用開始後も、家族に毎日通ってもらったり宿泊してもらう等の取り組みをしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者と共に寄り添う関係作りに努めており、日々の生活の中で、昔からの風習や作法などを教わる機会がある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	世間話の内容から、利用者の希望や意向を引き出したり、日々のかかわりの中で、利用者の表情や行動から汲み取り、把握するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族の意向を取り入れ、職員の気づきや意見を反映した個別の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	三ヶ月ごとにモニタリングを行い定期的な見直しをすると共に、期間終了前に状況の変化が生じた場合は、その都度担当者会議を開き検討し見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の状況や要望に応じて通院介助や送迎の支援を行ったり、お墓参りなど個別の外出の支援を行っている。また、健康管理・医療連携体制を強化している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を優先し、これまでのかかりつけ医での受診の支援や同じ法人の病院や協力医療機関との連携を密にし、適切な医療が受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の対応について、主治医や職員共に方針の共有を図っており、事業所の方針や具体的な支援内容を重要事項説明書に明文化し、本人や家族に説明し、意向を確認している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりの誇りやプライバシーに配慮した言葉かけやケアを徹底するように、職員間でお互いに気をつけている。個人情報に関する勉強会を実施し、職員の意識向上を図っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、利用者のその日・その時の体調や気分に合わせて柔軟に対応し、個々のペースを尊重した暮らしを支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理の下ごしらえ・味付け・後片付けなど、できることは手伝ってもらいながら一緒に食事を作っている。利用者の食べ物の好みや苦手なものを把握し、楽しく食事ができるよう雰囲気作りも大切にしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は一応決めているが、利用者の希望に応じて対応している。一番風呂の希望や同性の介助希望など、一人ひとりの意向を大切に、くつろいだ入浴ができるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴を把握し、食事の準備・後片付け・掃除・洗濯物たたみなど、役割をもって楽しんで生活できるよう支援している。歌うことを楽しみとしたり、貼り絵や折り紙など趣味の支援も行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候や利用者の体調を考慮しながら、頻繁に散歩したり、近くの公園に出かけたり、ホーム前の駐車場で過ごすなど、屋外に出る機会を作っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	外出傾向のある利用者の行動パターンを把握し、外出しそうな気配を察知したら、止めるのではなく気分転換を図ったり、そとついて行き見守るなど、安全面に配慮しながら鍵をかけない自由な暮らしを支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署の協力を得て、避難経路の確認や避難訓練を実施しており、災害に備えた非常食などの備品を準備している。建物の構造上、近隣住民の協力の必要性を感じ協力依頼をしているが、地域住民参加の避難訓練は実施していない。	○	地域の協力体制については、運営推進会議で地域代表者に依頼しているので、今後、近隣住民に災害時対策に対する理解を求め、定期的な訓練を実施することが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の希望を取り入れながら、栄養士がバランスの取れた献立を作成し、利用者の状態に応じた調理の工夫をしている。また、一日の食事量や水分摂取量を大まかに把握している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内は、季節の花や節句の飾りなどで、季節感を感じる家庭的な空間になっている。日中過ごすことが多い食堂兼居間は、くつろげる居心地の良い場所になっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や使い慣れた日用品が持ち込まれ、一人ひとりの生活スタイルや希望に合わせて家具の配置を行い、居心地良く過ごせるよう配慮している。		